

現地建物被害調査について

1. 調査目的

調査は、東日本大震災で液状化による被害を受けた建物を対象に、今後の液状化対策事業化に向けた対策方法の検討に用いる基礎資料を得ること及び液状化対策事業に対する住民の方の考え方、要望の把握を目的に実施します。

2. 調査対象地区

調査は、旭、飯岡、海上、干潟の各地区を対象に実施します。

液状化対策事業に対する住民の方の考え方や要望については、液状化被害を受けた全ての建物を対象に実施します。

対策方法検討の基礎資料となる被害建物の変状調査については、被害を受けた建物の中から地理的位置や被害程度等を考慮し、100箇所程度を選定し実施します。

3. 調査期間

平成 24 年 12 月中旬～平成 25 年 1 月下旬

4. 調査項目

- ・ 建物諸元（構造形式、基礎形式、建築年など）
- ・ 被災状況（建物の沈下量、基礎や屋根等の変状）
- ・ 液状化対策事業についての考え方やご要望

5. 調査方法

- ・ 建物の構造や建築年及び液状化対策事業への考え方や要望については聞き取りにより実施
- ・ 建物の沈下量等については計測機器を使用して実施

6. 調査票

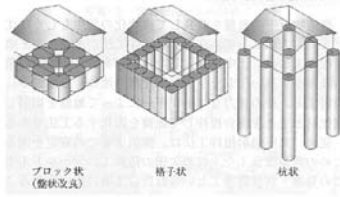
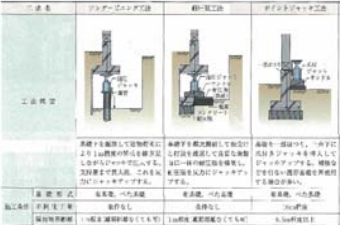
地区名	0		宅地地盤・建物の被災状況調査票（一般住宅）							
建物No.		調査順		丁目		番地		号		
家屋名称		調査可否	不可		不可の理由					
沈下修正工法										
建物構造		木造、RC、鉄骨、その他（ ）を記載→								
基礎構造		布基礎、ベタ基礎、独立基礎、その他（ ）を記載→								
建築面積		1F、2F、3F、4F、5F、その他（ ）を記載→								
被災原因		地震による直接損壊、液状化、地すべり等を記載→								
被災状況	地盤変状	クラック、段差等の状況を記載→								
	沈下量	建物平均めりこみ沈下量(S _p)：(mm)					罹災証明の判定結果：			
		建物不同沈下量 (S _D)：(mm)					罹災証明の値(cm)：			
		建物平均絶対沈下量 (S _A)：(mm)					罹災の傾斜(X/1000)： 0.0			
		宅地地盤の平均沈下量 (e [〃])：(mm)					調査年月日：			
	傾斜	建物の傾斜(最大)：/1000								
		建物の傾斜(平均)：/1000								
	基礎	クラックの有無 mm × ヶ所								
	外壁屋根	異常の有無及び状況：								
建具	異常の有無及び状況：									
外構	異常の有無及び状況：									
見取り図、測量結果 BMは、前面道路 人孔等										
		建物基礎高 (mm)		測定値	BM-測定値					
			1			1'				
			2			2'				
			3			3'				
			4			4'				
			5			(建物基礎高-BM) ↑ の最高・最低値 を含む抽出値				
			6							
			7							
		道路高 (mm)	A							
			B							
			C							
		地盤高 (mm)	①							
			②							
			③							
			④							
			⑤							
			⑥							
			⑦							
		BM(mm)								
			測定結果を↑ そのまま表記							
		距離 (m)					震災前建物基礎高			(cm)
		1'-2'		2'-3'		1'-3'		建物寸法		
		3'-4'		4'-1'		2'-4'		調査年月日		

注) 敷地内地盤はクラックの位置、状況等を記録（幅、段差、深さ等）

建物 No.	
【 アンケート 】 宅地地盤・建物の被災状況調査票（一般住宅）	
■家屋の被災の程度	☐ 全壊 ☐ 大規模半壊 ☐ 半壊 ☐ 一部損壊 ☐ 基準未満の傾斜のみ ☐ 無被害
■地震がおきたときの状況（2011/3/11の地震）	
噴砂の発生	有（ 箇所くらい）（本震時／余震時），無，不明 14:46 本震発生から（ ）分後くらい、噴出量（ ）くらい 15:15 余震発生から（ ）分後くらい、噴出量（ ）くらい
家屋以外の被害	有（場所や程度 ），無
ライフラインの被害 （家屋への引き込み管）	上水道被害 有（どのような ），無 下水道被害 有（どのような ），無
浄化水槽被害 有（どのような ），無	
■家屋の建築年月	建築年（ 年 月），不明（昭和56年以前、昭和57年以降）
■敷地の造成状況 盛土又は覆土について	※家を建てる前に土をどのくらい積みましたか？ 有（高さ mくらい），無
■地震前の不同沈下	※2011/3/11の地震が起きる前から家が傾いていましたか？ 有（どの向きに、どの程度 ），無，不明
■家を建てる前の地盤対策について	
敷地地盤のセメント系改良	有（改良形状：ブロック状，格子状，杭状，その他 ） （深さ mくらい），無 ※別紙-1 をご参照下さい
敷地地盤に杭を打った	有（杭の種類：木杭，鋼管杭，砂杭，砂利杭，その他 ），無
特に液状化への対策をおこないましたか？有（どのような ，深さ mくらい），無	
■地震被災後の補修について	
家屋傾斜の補修	有（屋内から地盤に改良材注入，屋外から地盤に改良材注入，ジャッキアップによる工法，その他 工法名など ），無 ※別紙-1 をご参照下さい
家屋基礎の補修	有（ジャッキアップによる方法，その他 工法名など ），無
外壁・屋根の補修	有（場所とその補修方法など ），無
外構の補修	有（塀や生け垣、門扉、車庫、庭、アプローチなど ），無
敷地地盤対策の実施	有（セメント系改良，杭打ち，その他 工法名など ），無

■旭市の液状化対策事業への考え方、要望事項	
対策事業の理解	☐ 知っている ☐ 知らない ☐ どちらともいえない ☐ その他（ ）
対策事業実施要望	☐ 実施を強く要望 ☐ 実施を要望 ☐ どちらともいえない ☐ 実施は不要 ☐ その他（ ）
対策への個人負担可能額	☐ 1000万円以上 ☐ 500～999万円 ☐ 300～499万円 ☐ 100～299万円 ☐ 100万円以下 ☐ その他（ ）
要望事項	☐ 対策方法の情報提供 ☐ 施工業者の情報提供 ☐ その他（ ）
その他ご意見	

別紙-1

☐ 敷地地盤のセメント系改良	☐ 地盤をセメント系改良し丈夫にする。  ブロック状（整状改良） 格子状 杭状	☐ 家屋傾斜の補修	☐ 地盤に改良材を注入し、家屋の傾斜を補修した。 ☐ 屋内から注入（コンパクショングラウチング工法）  ☐ 屋内から注入（JOG工法）  ☐ 屋外から注入（J-LIFT（アイ・リフト）工法）  ☐ 基礎や上層の間をジャッキアップして、家屋の傾斜を補修した。 
---------------------------------------	--	----------------------------------	---

7.現地調査対象建物

表-1 調査対象建物数量（予定）

地 区	建物被災程度	全被災家屋数 ※アンケート調査実施	調査対象家屋数 ※全被災家屋のうちレベル 測量も実施する家屋数
旭	全壊	21	2
	大規模半壊	63	6
	半壊	62	9
	一部損壊	41	6
	基準未満の傾斜のみ	-	-
	無被害	-	-
飯 岡	全壊	35	2
	大規模半壊	83	2
	半壊	133	3
	一部損壊	95	3
	基準未満の傾斜のみ	-	-
	無被害	-	-
海 上	全壊	40	5
	大規模半壊	56	20
	半壊	55	20
	一部損壊	52	16
	基準未満の傾斜のみ	-	-
	無被害	-	-
干 潟	全壊	2	1
	大規模半壊	17	2
	半壊	13	2
	一部損壊	5	1
	基準未満の傾斜のみ	-	-
	無被害	-	-
計		773	100

旭市液状化検討委員会 現地視察

